

## 北極域研究船の受注について

ジャパン マリンユナイテッド株式会社(社長:千葉 光太郎、本社:神奈川県横浜市、JMU)は、2021年8月19日に、我が国初となる砕氷能力を有し、北極域を中心としたグローバルな気象・海象等観測を可能とする「北極域研究船」の建造を国立研究開発法人海洋研究開発機構より受注いたしました。

本船は、海氷の減少などの急激な環境変化が進み、我が国を含む中緯度域、ひいては地球全体の気候・気象変動にも大きく影響を及ぼしているとされる北極域で、我が国が、北極域に隣接しその影響を受ける国として、さらには世界のリーダーの一員として、北極域が抱えている諸課題の解決に科学的根拠をもって貢献していくため、国際的な研究プラットフォームとして活用可能な、かつ十分な砕氷機能と世界レベルの観測機能を備える研究船として計画されています。

また、本船は、優秀な砕氷性能を備えるだけでなく、海洋研究船として、通常海域(海氷のない海域)における航行性能も必要とされています。これら相反する性能を両立させるため、JMUは、南極観測船「しらせ」等での実証と更なる研究により得た知識と経験を総動員して、我が国が誇れる研究船となるよう建造に邁進します。

JMUでは、技術研究所に氷海試験水槽を有し、南極観測事業に携わる砕氷船等の氷海船舶建造技術に加え、高度な技術を要する艦艇・官公庁船を数多く建造してきた経験を活かし、極域の気象・海象観測研究に資する船舶の建造を通して、北極域の持続可能な開発・利用・保全の実現に貢献して参ります。

### 本船の主な要目(計画)

全長	128m
全幅(型)	23m
深さ(型)	8m
総トン数	13,000トン(国際総トン数)
砕氷能力	平坦1年氷 1.2 mを3.0ktの船速で連続砕氷可能
耐氷能力	ポーラークラス4 ※
乗員	99名

※国際船級協会連合(IACS)が定める氷海における船の耐氷能力を証明する統一規則。ポーラークラス4は、「多年氷が一部混在する厚い一年氷がある海域を通年航行可能」と定義されている。

### 本船の主な要件

- ・世界レベルの観測が可能な設備と、科学魚群探知機等の新たな設備の搭載
- ・海水域における必要十分な砕氷・耐氷性能と通常海域を含む観測性能を両立するための船型
- ・安全かつ効率的な運航に資する先進的な氷海航行支援システムの搭載
- ・デュアルフューエル機関の採用による環境負荷低減、低燃費の工夫
- ・十分な定点保持機能と効率的な推進システム
- ・ROV、AUV 等の無人探査機器の運用
- ・安全確保、海水等観測用のヘリコプターの運用機能
- ・十分なラボスペース、優れたネットワーク等の世界レベルの研究・分析環境
- ・国際プラットフォームとして、ユニバーサルな居住環境の実現
- ・豪雨等による自然災害発生時の被災地支援対応

### 完成イメージ図



©JAMSTEC

問い合わせ先：

総務部 広報グループ

TEL：045-264-7164/7168